



様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
安藤主幹	開会・あいさつ
副会長	<あいさつ>
安藤主幹	出席者が全委員の過半数に達しているため、審議会規定により会議の成立を確認。 傍聴者はなし。
事務局	<資料 1 及び資料 2 に基づいてヒアリング結果について報告>
委員	バイオマス発電事業の実施についてのご意見があったが、バイオマス発電については、一自治体が単独で行うことは難しくなっており、広域の方へシフトしていている。答申に記載しないことは賛成である。所沢市は再生可能エネルギーの活用に積極的に取り組んでいるので、「バイオマス発電」に限定するのではなく、より一般的な表現での記載が望ましい。
副会長	バイオマス発電について、以前、視察に行った際、採算を合わないといった課題があるとの説明があった。民間の資金や経営能力を活用するといった手法は出来ないか。
委員	そのような手法はこれまでも行ってきたが、規模が大きくなると難しい。 固定価格買取制度のもと、再生可能エネルギーの利用が進んでいるが、政府は価格を下げているため、市としては下がった分の補てんをするのかなど考えていかなければいけない。
委員	「ダイヤ 4 市」とは何か。
大館課長	狭山、入間、飯能、所沢の 4 市で広域行政を組んでおり、協働事業等を実施している。
委員	固定価格買取制度について、最近、負の側面が出てきており、例えば太陽光については、山林を切り開いてのパネルの設置などが問題視されている。

	<p>さらに、太陽光発電が下火になり、バイオマス発電の買取価格が上昇している現在においては、バイオマス発電の導入が進んでいるが、何を燃やしているのかわからないような事例が散見されるようになってきている。</p> <p>海外産のウッドチップを原料とすることは、本来「地産地消」であるべき再生可能エネルギーであるにもかかわらず、外から持ってきたとなっては、化石燃料と変わらない。</p> <p>また、ごみを原料とすることも、今の技術では、水分が多いと十分な発電量を得られないので、徹底した分別が必要となり、ごみをどのように分別するかという問題に立ち代る。</p> <p>このような動きや所沢の地域特性を踏まえると、やはりバイオマス発電をすぐに行うことは難しい。</p>
会 長	<p>本日の資料として、みなさんのヒアリング結果とご意見を反映した答申の原案がまとまっているので、まずは、答申案について確認していただきたい。</p>
事務局	<p>&lt;資料2に基づき答申案について説明&gt;</p>
会 長	<p>今回、文言で整理した配慮行動について、どのような形で次年度展開していくのか。具体的なプログラムのようなものは考えているのか。</p>
大館課長	<p>今回のご審議の内容を踏まえて、市民の方に環境配慮行動を促すプログラムとして、自らの配慮行動を宣言してもらい、それを認証するようなものを考えている。</p>
委 員	<p>答申書を冊子として市民に配布するのであれば、環境基本計画やまちごとエコタウン所沢構想との関わり合いなどの位置づけをしっかりとした方が良い。</p>
大館課長	<p>新しい環境基本計画及びまちごとエコタウン所沢構想は、次年度より策定作業を行う予定。前回の改定の際も温暖化対策に係る部分を拡充させており、今後についても、環境基本計画の改定の際に、温暖化対策に係る分野を取り扱っていきたいと思っている。</p>
会 長	<p>審議の経過を整理すると、昨年、市長から「環境施策の効果的な推進方策について」の諮問を受けた。諮問の具体的内容は、所沢市として、</p>

	<p>早急に取り組むべき課題として、市民を中心にした具体的・実践的な行動を促していく方策についてだと認識している。そこで、当審議会としては、市民の環境配慮行動に絞り検討が始まっている。</p>
<p>委員</p>	<p>7ページの「推進方策」が重要で、上段の図を表すような記載ができれば良いのではないかと。特に「主体」と「場」についてはつながりを持って記述できているが、「手法」の部分が個人の環境意識の醸成に主眼を置いた記載となっている。もう少し「場」にどのようにつなげていくかを示していけると環境基本計画にも反映しやすくなるのではないかと。</p>
<p>会長</p>	<p>市内の団体等への支援策は市として行っているのか。</p>
<p>大館課長</p>	<p>市内では、「環境推進員」として約1000名を超える方が任命されている状況で、この方たちを中心として、地域の環境活動や清掃活動を展開しており、補助金のようなものを市から交付している。</p> <p>そのほか、みどりの保全活動等に取り組む「みどりのパートナー」も約50団体あり、活動に対する支援活動も行っている。</p>
<p>会長</p>	<p>グループ化が大きなカギになる。「一人ひとりの行動をグループにつなげていくことで、波及効果をもたらし、継続性が高まる。」といったご指摘があった。</p> <p>市が行っている個人に対する支援（省エネ設備導入等への補助金）と活動団体に対して行われる支援を整理してはどうか。</p>
<p>大館課長</p>	<p>市民及び市民団体への支援について整理し、リスト化したものを次回の参考資料とする。</p>
<p>委員</p>	<p>太陽光発電などの前に、エネルギーを大切にしないといけない。その情報の共有化に苦慮している。</p>
<p>副会長</p>	<p>環境教育・環境学習のエキスパートを育て、温暖化の現状や環境配慮行動について知ってもらう機会を増やすことが重要。</p> <p>また、活動を評価することで、モチベーションが上がり、やりがいにつながるのではないかと。</p>

委員	<p>これまでのご意見について、環境基本計画の中に盛り込む文言と答申内のみに記載する文言を、審議会として整理した方が良いのではないかと。</p>
会長	<p>今までのご意見は、「主体」の強化に関するご意見。「主体」の強化には、教育や学習、情報の共有化が重要なので、もう少し強調した表現に修正していく。</p> <p>また、環境基本計画への反映については、次のステージの話であるため、市として本提言をもとに考えてもらうこととして、当審議会としては、重用性・必要性の高いものについてまとめていきたい。</p> <p>8ページに記載のある「手法」として「インセンティブの付与」があるが、そのほか、「ネットワークの構築」や「機会や場の提供」、「自己宣言型」も考えられる。</p>
委員	<p>審議会は具体的な政策や事業を決めるといったものではない。事業を決定していくうえでの考え方等を答申としてまとめていくものだと思う。</p> <p>市民に対して行政は、啓発と投資しかなく、これまでは啓発を行ってきたが、二酸化炭素排出量はあまり削減されていない。啓発は市民に対し、一方的に行動を促すものなのでうまくいっていないのだと思う。この答申書は同じく啓発のように思えるが、「主体」「場」「手法」を考えたことが一番の肝だと思う。しかし、3つの観点の関係性についての記述がないので、追記すべき。</p> <p>また、地域のつながりを深めていくことも「所沢らしさ」につながるのではないかと。</p>
会長	<p>「主体」「場」「手法」の3つの着眼点をつなぐ相互の関係性を強めるような政策手法が必要になってくる。循環をしていくようなイメージがあるので、このイメージに基づいて市の政策を持っていけるような誘導性があると良いといったものが、今のご意見の概意のように思う。</p>
委員	<p>記載するのはなかなか難しい。</p> <p>しかし、そういった意識を持って事業を行っていくことだけでも有意義ではないかと。</p>

大館課長	ヒアリングでのみなさんのご意見を踏まえたつもりでしたが、若干の記載不足もあると思うので、本日のご意見を踏まえ、加筆をしていきたい。
副会長	考え方に関する部分もあるため、あまり具体的に描く必要はないのではないか。
会 長	「主体の強化」「場の展開」「手法の実施」についての考え方は追記をしていく。さらに、相互の関係性があると意識することが大事である。そのうえで、具体的な取り組み例があれば、「自己宣言型」のように例示していく。
委 員	以前は「環境問題」は傍流的であったが、もうしばらくすると、主流になり、これからの環境施策はさまざまなチェックを受けるようになる。その対策として、「所沢らしさ」が重要になってくる。「環境」が所沢市のマチづくりの政策の中のどこに位置するかまで書くと議論がうまく反映されるのではないか。
会 長	<p>考え方について示すのも重要だが、行政が直面している課題に対してはある種の処方箋も必要で、根本治療と対処療法をうまく書き表せれば良い。</p> <p>また、他方面との連携については、視野を広げることと同時に、順番をつけることも行わなければならない。</p>
事務局	<今後のスケジュールについて説明>
安藤主幹	<p>&lt;まとめ&gt;</p> <p>閉会</p>